

2021年4月13日

UNIVERSITY of CREATIVITY、生活文化創造オープンプラットフォーム 「Tokyo Urban Farming」を発足

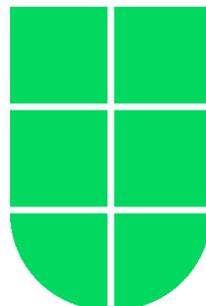
一都市の遊休地や屋上などを活用したアーバンファーマーミングという生活文化の創造を推進。

JR東日本 東京感動線、プランティオ、プロトリーフの参画が決定

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）が発足した、未来創造の技術としてのクリエイティビティを研究・開発し、社会実験していく研究機関「UNIVERSITY of CREATIVITY（ユニバーシティ・オブ・クリエイティビティ）」は、脱炭素時代に都市の遊休地やビルの屋上・家庭菜園などを活用して農的な活動を行うアーバンファーマーミングという新たな生活文化の創造を目指し、企業・団体・市民が協働してさまざまな取り組みや情報発信を行う生活文化創造オープンプラットフォーム「Tokyo Urban Farming」を発足いたします。

またこのたび、JR東日本が展開する山手線ブランド「東京感動線」、プランティオ株式会社、株式会社プロトリーフの本プラットフォームへの参画が決定しました。

Tokyoを
食べられる森
にしよう



Tokyo
Urban
Farming
Re-generative Livedesign
in Cities

アーバンファーマーミングは、都市における農を通じた持続可能な生活文化として、またコミュニティ形成や防災の拠点という観点からも近年世界的に注目が集まっています。都市部に畑を増やすことで緑化を推進し、ヒートアイランド現象の緩和やCO2の削減といった環境面での効果が見込めることに加えて、子どもたちの食育、食料自給率の向上や地産地消、コンポスト（堆肥化）によるフードロスの削減にもつながる可能性があり、SDGsの「住み続けられるまちづくりを」「気候変動に具体的な対策を」「すべての人に健康と福祉を」などの目標において大きな効果が期待されます。

Tokyo Urban Farmingは、「アーバンファーマーミングを、もっと楽しく、美しく、あたりまえにする。」をミッションに、人と自然、人と人がつながるアーバンファーマーミングという新たな生活文化を東京から創造することを目指した、特定の組織だけに限定されることのないオープンなプラットフォームです。趣旨に賛同する企

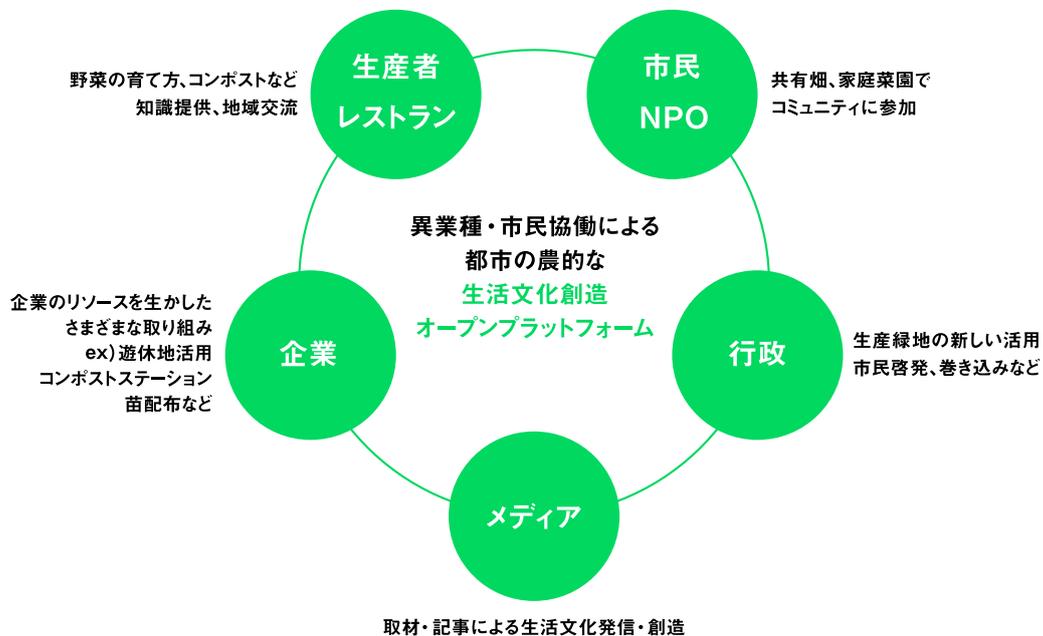
業・団体・個人が広く連携しながら、それぞれが持つ多様なリソースを活用し、都市の遊休地や屋上を活用したコミュニティファームの創出、コンポストステーションの実証実験、イベントの開催や関連情報の発信など、アーバンファームの創出・普及に向けたさまざまな取り組みを行っていきます。

また、博報堂の新規事業開発組織「ミライの事業室」とも連携し、アーバンファームを通じた新たな事業の創出を推進します。

Tokyo Urban Farming は今後も、多様な企業・団体・個人と連携し、アーバンファームという持続可能な生活文化の創造に向けてさまざまな活動を展開してまいります。

◆ 生活文化創造オープンプラットフォーム「Tokyo Urban Farming」

Tokyo Urban Farming は、2020年9月15日に実施したUNIVERSITY of CREATIVITY（略称：UoC）開港記念Mandalaセッション『妄想「TOKYO 2030」#3 都市に森をつくるーアーバンファームの可能性』の対話の中から構想が生まれたプロジェクトです。



◆ 「Tokyo Urban Farming」の4つのアクション

【コミュニティファームの創出】

都市の遊休地の活用により、人と自然が循環するcommonsを創出します

【イベントの開催】

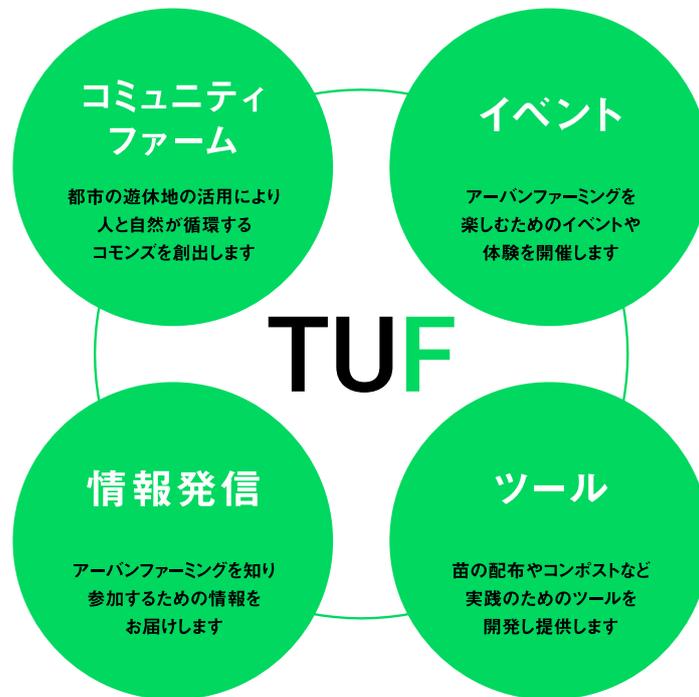
アーバンファームを楽しむための、イベントや体験を開催します

【情報発信】

アーバンファームを知り、参加するための情報をお届けします

【ツールの開発・実行】

苗の配布やコンポストなど、実践のためのツールを開発し、提供します



◆ 今後予定されている取り組み・イベント

《「Tokyo Urban Farming」の取り組み・イベント》

- 都市の狭小空間における野菜畑「Micro Farm」を独自に開発、UoC TOKYO Campus 内に設置
都市の狭小空間でも野菜栽培を楽しむことができるバーティカルファーム「Micro Farm」を、プロトリーフ
の協力により開発。プロジェクトのリリースにあわせ、UoC TOKYO Campus 内でハーブ栽培を開始。この
「Micro Farm」の拡大版をゴールデンウィークに「THE SHIBUYA WEEK 2021」にて展開（後述）。
- Tokyo Urban Farming キックオフセッション開催
[日時] 2021年4月21日（水）18時～20時
[場所] UoC TOKYO Campus 大マンダラ（無料オンライン配信も実施）
※本セッションの詳細は、UoC の下記ページをご覧ください
<https://uoc.world/now/>
- 「渋谷スクランブルスクエア」が開催する「THE SHIBUYA WEEK 2021」への出展
[日程] 2021年4月28日（水）～5月9日（日）
[場所] 渋谷スクランブルスクエア 7階イベントスペース「L×7（エル バイ セブン）」
アーバンファーマーミングを通じたサステナブルなライフスタイルを楽しむための「Micro Farm」（都市の狭小
空間における野菜畑）や、コンポスト（生ごみや落ち葉などを堆肥化するツール）の展示を実施。トマト苗
や、Share Seeds による野菜の種の無料配布も数量限定で実施予定。
※「THE SHIBUYA WEEK 2021」の詳細は、下記特設ページをご覧ください
<https://www.shibuya-scramble-square.com/the-shibuya-week-2021/>

- 博報堂ミライの事業室の「good farm」第1弾が渋谷にオープン、Tokyo Urban Farming と連携
「good farm」とは、博報堂の新規事業開発組織「ミライの事業室」が推進するデジタルアプリサービス「市民共創型のまちづくりサービス good pass」の取り組みのひとつとして提供する、みんなで育てて楽しむ都市農園サービス。実際の方がオープン次第、Tokyo Urban Farming と連携し、様々な取り組みを実施していく予定。(2021 年内オープン予定)

《「Tokyo Urban Farming」参画企業が主催する取り組み・イベント》

- JR東日本の山手線駅における実証実験
JR東日本の山手線駅において、小規模農園・コンポストステーションの設置や、工事ヤードにおける廃棄される土を使って植物を育てる取組みを実施予定。時期・場所などの詳細については調整中。
- JR東日本高輪ゲートウェイ駅におけるトマト苗などの無料配布
[日時] 2021年4月24日(土) 13時から ※トマト苗がなくなり次第終了
[場所] 高輪ゲートウェイ駅 改札外スペース
[配布数量] トマト苗：各500ポット(合計1,000ポット) 1世帯につき各1ポット、合計2ポット配布
土：100個 1世帯につき1個配布

◆ 「Tokyo Urban Farming」サイト

<https://tokyourbanfarming.jp/>

◆ 「Tokyo Urban Farming」の取り組み内容や、本プラットフォームへの参画に関するお問い合わせ info@tokyourbanfarming.jp

◆ UNIVERSITY of CREATIVITY 「サステナビリティ研究領域」フィールドディレクター 近藤 ヒデノリ (「Tokyo Urban Farming」発起人)



CMプランナーとして勤務後、NY大学/国際写真センター(ICP)修士課程で現代美術を学び、9.11直前に復職。「サステナブルクリエイティビティ」を軸に企業や自治体のブランディング、商品・メディア開発、イベント企画等を行う他、地域共生の家「KYODO HOUSE」を主宰。広告・アート・パーマカルチャー等領域を越えて持続可能な文化創造のために活動中。2019年よりグッドデザイン賞審査員。編著に『都会からはじまる新しい生き方のデザイン』等多数。

■ 博報堂 UNIVERSITY of CREATIVITY (UoC)

UNIVERSITY of CREATIVITY は、2020年9月に開港しました。社会でAI、IoT、ビッグデータが急速に普及する今こそ、創造性を人類最大の資本として捉え直し、新しい文明の地図を描くための「クリエイティビティの港」となることを目指し、文理芸や産官学の壁を超えて多様なクリエイティビティの研究と実験の掛け算を生み出すことで、世界の課題解決や新しい感動の源泉発掘につなげたいと考えています。

UoCでは、専門性の高い研究員やデザイナーや文化人が、「AIと共創する創造力」「サステナビリティを生む創造力」「ポストコロナソサエティを生む創造力」など10の分野(Creative Fields)に分かれて個別研究を行っています。各研究の領域を通じて、社会彫刻への創造的な問いを書き直し(Mandala)、専門家が研究やデザイン企画を発酵させ(Ferment)、社会実装へとプロトタイプ(Play)していくことで、UoCオリジナルの知行合一の循環(Bodaiju)を生み出します。

■ JR東日本 東京感動線

山手線は、世界的にもユニークな地上を走る都心の環状線であり、歴史的・文化的に多様な個性のまちとまち、人と人をつないでいます。JR東日本では、移動を含めた日常生活の利便性を高めるサービスに加え、多様なまちや人の個性を引き出し、駅と駅、駅とまち、人とまち、人と人のつながりを創り出すことで、心豊かな都市生活空間「東京感動線/TOKYO MOVING ROUND」を創造してまいります。具体的には、西日暮里駅における学びの交流拠点「エキラボ niri/西日暮里スクランブル/エキマド」や、新大久保駅における食の交流拠点「Kimchi, Durian, Cardamom,,, (キムチ、ドリアン、カルダモン)」など、フラッグシップとなる場の提供のほか、「東京感動線 magazine」を不定期に発刊し、東京で活躍する人や先進的な取組みを紹介しています。

東京感動線のテーマ、提案したい価値観の1つとして「東京の豊かな緑」があり、今回「Tokyo Urban Farming」に参画することで、私たちのコンセプトフレーズである「東京の、ちょっとだけ未来の景色。」を、皆さまと共に実現していきたいと考えています。

公式サイト：<https://www.jreast.co.jp/tokyomovinground/>

■ プランティオ株式会社

従来、勘と経験に頼っており、標準化がされていなかった野菜栽培を世界で初めてIoTとAIの力で集合知とすることで標準化し、どなたでも簡単に野菜栽培が可能となるナビゲーションシステム(Crowd Farming System)を開発、さらにご家庭のベランダ、ビルの屋上などの遊休地、または商業施設の屋内などあらゆる場所で“アグリカルチャーに触れる機会”を創出し、近隣の飲食店と連携し地産地消(FARM to TABLE)を行うプラットフォーム(grow)の開発、grow SHARE とよばれる誰がどこでどんな野菜を栽培し、それらの野菜栽培が広がることで栽培量の可視化や、緑肥面積、Co2の削減量、ヒートアイランド現象への貢献などが可視化されるシステムなどを通じ、都市への持続可能な農と食のデータドリブンな社会実装を行います。スマートシティや地方都市のDX化など、農ある街づくりや農を通じたあたらしいライフスタイル、コミュニティの形成を創出します。

■ 株式会社プロトリーフ

「good grow green 植物たちとともに、健康に成長していく企業であること」を企業理念とし、「地球環境と経済活動が両立できる仕組みを創造し、次世代に伝承すること」を環境理念としている私たちの事業活動の礎は、地球が与えてくれた自然の恵みです。多様な生物が共存する豊かな地球環境を保全するために創造的に活動し、植物のある暮らしを提案するとともに、安全・安心な生活を実感するきっかけとなる場を提供していきたいと考えています。

自分でおいしい野菜を育て、食したあとの残った食材をたい肥化し、そのたい肥を含んだ培養土でおいしい野菜を育てる、都市で生活しているなかでできる持続可能な暮らしをおくるための技術や考え方をアーバンファームングを通じて発信します。

【Tokyo Urban Farming の取り組みや参画に関するお問い合わせ】 info@tokyourbanfarming.jp

【報道関係のお問い合わせ】 株式会社博報堂 広報室 玉・西尾 koho.mail@hakuhodo.co.jp 03-6441-6161